

愛と夢 in 野間

— 野間中学校 校長だより 7号 — H30.8.1



7月19日(木)の6時間目に部活動壮行会を生徒会が中心となって開いてくれました。各部活動とも限られた時間の中で、郡大会に向けての抱負を力強く語ってくれました。最後に、私たち教員も、選手諸君が最高のパフォーマンスを出せるように、応援のエールを送りました。私「フレー！フレー！野間中！」みんな「フレ！フレ！野間中！フレ！フレ！野間中！」

終業式 校長式辞

5月に蒔いた朝顔が屋根まで伸び、ここ数日、一輪ずつ花が咲き始めました。暑い日に、一服の涼を感じます。

さて、「愛と夢のある学校」を目指して、やってきました。「愛のある学校」は、人と人が温かい人間関係で結ばれている学校だと言ってきました。これからの世の中は、多くの職業が人工知能にとってかわられることが予想されます。温かい人間関係づくりは、たぶん人でなくてはできないだろう。とすると、この温かい人間関係を創る力をもっている人が世の中で「大切な人」「価値ある人」となってくるでしょう。



ぜひ、みなさんの力を貸してください

愛のある学校を創るために「温かい人間関係づくり」をがんばったかどうか？点数をつけてください。あいさつもがんばってやったし、困っている人にやさしく声もかけたとか人と人をつないだっていう人は5点満点。逆に、人と話すのがめんどうだから、声をかけられても無視していたなんていう人は1点かな。それでは5点4点か3点か2点か1点か、手を挙げてください。

温かい人間関係ができていれば、不登校はなくなるはず。なかなか学校に来れない生徒もいます。でも、私は、あきらめません。温かい人間関係づくりに努力していきたいと思います。ただ、私一人だけでは力が足りません。どうか、みなさんの力を貸してください。

「夢のある学校」は、私が笹をもってきて、みなさんが短冊に「夢」や「希望」を書いて笹につけてくれました。ありがとう。「将来の夢があるという人は3点」、「将来の夢はないが、テストでいい点を取りたいとか友だちを作りたいとか希望はある。という人は2点。」「全く夢も希望もないという人は1点。」今後、夢や希望がもてることを願っています。

3年生のみなさん、明日から郡大会です。悔いの無い大会にしてください。そして1・2年生。特に2年生。郡大会が終わると、次は君たちが主役だ。新チームのスタートが肝心。どんなチームにするか？は、あなたたちにかかっています。

最後に、2学期、9月1日が土曜日なので、みんなと会えるのは、9月3日月曜日、全員がそろって学校に来てくれることを願っています。

学年代表スピーチ

ぼくの1学期

ぼくは、この1学期で、友達の優しさとクラスで協力することの大切さを学びました。

一つ目は、まだ、ぼくが学校に慣れていない頃、他の小学校の子が話しかけてくれて、うまくクラスになじめたことです。ぼくも、自分から話しかけるようになりました。

二つ目は、1年生最初の行事「自然の家合宿」です。大縄とびでは、みんなで協力し、1位をとりました。クラスで協力し何かを成し遂げる達成感を味わえました。

今、ぼくは級長をしています。みんなに協力してもらっているので、2学期は、ぼくが率先してみんなを引っ張っていきたいです。そして、野中祭をはじめ、いろいろな行事は全て、クラス・学年で協力し、成功させたいです。



郡上八幡研修を通して学んだこと

私は、郡上八幡研修の副実行委員長として、6月の研修に向けて様々な準備をさせてもらいました。2ヶ月の準備と2泊3日の当日の中で、私が成長を感じた2つのことを紹介します。

1つ目は、郡上八幡研修の1日目のキャンプファイヤー夜。天気予報は雨で降水確率70%。三山先生が私たち実行委員3人を自然園の事務所に呼び、キャンプファイヤーを外でやるか、中でやるか、の決断を求められました。皆で話しあい、悩みに悩み、外でやることにしました。今まで準備してきた仲間たちの思いや、やりきった時の皆の喜ぶ姿を見るために外でやると決心しました。

自然園の方のご厚意により、火文字を外と中の両方に準備していただきました。私の思いや、仲間の思いを大切にしてくれた自然園の方々に、とても感謝しました。そして、いよいよ本番。空には雲がかかっている、皆不安そうな表情でしたが、皆の願いが届いたのか、雨はいつさい降らないまま次々とプログラムが進んでいきました。私の願いを込めたラストの火文字まで終わり、キャンプファイヤーは大成功しました。

2つ目は、2日目の郡上踊りです。講師として教えてくださる方々の中に、私たちと同年代の女の子が踊っていました。私たちのように若い世代が地域の伝統を学び、代々伝えていくというのは、良いことだなと思いました。それと同時に、彼女自身が地域の伝統を受け継いでいかなければならない中で、こうして活動している姿を見習いたいと思いました。

私は、この郡上八幡研修を通して、物事を判断することの難しさや本当の責任感を感じることができました。この郡上八幡研修での経験を今後の学級活動に活かしていきます。



1学期を振り返って

私が1学期を振り返って思うことは、一言では言えないほどたくさんのことであふれています。その中でも私を大きく変えてくれた2つのことがあります。それは、部活動と級長という立場です。

1つ目の部活動では、チームで持久走で全員が4分を切るという目標を掲げました。しかし、私は、「人一倍体力がない」「正直切れるわけがない」と心のどこかで決めつけていました。当たり前のように持久走では、4分を切ることはできませんでした。顧問の先生から「それはだめだ」と叱られ、もう一度本番と同じように走るようになりました。必死に走っていると、口の中が血の味がして息も苦しく、とても辛かったです。ですが、苦しい中、無我夢中で目標

に向けて走ると、4分を切ることができました。その時の達成感は忘れられません。私は、自分自身に言い訳をして甘えて、いやなことから逃げていたことに気づきました。ただ、がんばっているふりをしていたのかもしれませんが。どんなことにでも、精一杯やることで、自分が成長できるのだと実感しました。

2つ目は、級長になったことです。私は、男女の仲が深まり、クラスの絆が深くなるように、男女関係なく声をかけることを意識してきました。初めは男子、女子ともお互いに距離をおいていました。しかし、続けていくと少しずつクラスが変わってきました。海岸清掃では、一人一人が率先してゴミを拾うことができました。また、修学旅行の班別研修では、初めて行く場所、自分たちだけでの行動に不安を感じていました。しかし、班員のみんなが、今自分のできることを探して意見を出したり、行動したりしてくれました。そのようなことから、自分が発信したことに、フォロワーが応えてくれて、クラスが少しずつまとまりつつあることに気づきました。そして、3Cがまとまっていくことに、うれしくて、胸のどこかが熱くなるような不思議な気持ちになりました。

この2つの経験から、リーダーとしてさらに信頼される存在になりたいと思います。そのためにも、部活動から学んだ「精一杯やる」ということ、級長という立場から学んだ「発信し続ける」ということを大切にしていきたいです。そして、3Cが野中祭で輝けるように、リーダーとしての自覚をもって活動していきたいです。

